

今年度初めての部会は、Microsoft Teams を使ってオンラインで開催しました。部会では、夏の半日研に向けて、発表者と内容の確認を行いました。

I 物語教材で活用する「読みの観点の系統表」

令和2年度から、段階的に作成してきた、物語教材で活用する「読みの観点の系統表」に、今年度は、具体的な叙述に対する解釈例を加えたものを6学年分提案します。夏の半日研では、それぞれの教材で扱った解釈がどの教材につながっていくかを示し、参会者の方々から忌憚のないご意見をいただき、収斂させていきたいと考えています。

教材名	知識・技能	思考・判断・表現	記号時間
いつか、大切なところ	比喩や反復など、登場人物の心情を表す表現の工夫に気付いて読んでいる。	登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えている。 物語全体の登場人物の心情の変化などを具体的に想像したり、比喩や反復などの表現の効果を考えたりしている。	8時間

読みの観点	解説	関連教材
比喩	<p>ものごとの状態や様子を他のものごとにとえて表すこと。比喩を使うことで、表現が豊かになったり分かりやすくなったり、強調されたりといった効果がある。「～のようだ」「～みたいだ」のような言葉を使う直喩と、そういった言葉を用いない「隠喩（暗喩）」がある。メタファーともいう。</p> <p>2場面「なんだかむねにすき間風が入ってきたような感じた。」や「むねの中で冷たい風がふいている気がした。」といった表現では、「以前とは違う何かを感じている」ことを読み取ることができる。4場面の「めれた眼を著たように重かった。」といった表現からは、「悲しくて泣きそう気持ち」を読み取ることができる。</p>	4年「こんぎつね」 5年「雪わたり」
場面の対比	<p>複数の場面について、「～」 (参考文献：明治図書)</p> <p>ち・心情や表現技法などの違いを明らかにしながら、その効果を考えて読むこと。 (要×用語 事典)</p>	

今年度、新しく加えた「読みの観点」を活用した解釈例

系統的に「読みの観点」を活用するための関連教材

II 「読みの観点の系統表」を活用した授業提案

今年度は、「読みの観点の系統表」を活用した授業の提案をすることになりました。その後、推進委員の汐路小の館先生からは、5年生の物語教材を基に以下のような発表構想が提案されました。

1 昨年度、「読みの観点」を活用した授業を行って感じたこと

- (1) どの叙述に着目し、読んだらよいか分かるようになる。
→ 低位の児童にも効果的な手立てである。
- (2) 個別の問いの追究においても、「読みの観点」を活用することで互いの読みを共有しやすくなり、協働的な学びを行うことができる。
- (3) 教師は、単元での指導事項や単元の系統性を意識することができる。

2 「読みの観点」の課題として感じていること

「読みの観点」の課題として感じていること

- 「読みの観点」を活用して読むことには具体例と積み重ねが必要である。
→説明文の学習の前の導入のようなものを既習単元で作成できないか。 **提案①**
- 個別最適な学び・協働的な学びの中で「読みの観点」をどのように活用していくか考えたい。
→個別最適な学び・協働的な学びを目指し、ICTを活用した「雪わたり」の学習 **提案②**

「読みの観点」を活用した実践で挙げられた二つの課題を踏まえ、具体的な学習場面を取り上げて提案していこうと考えています。

3 5年「雪わたり」の教材では

5年「雪わたり」を扱った授業では、以下のようなポイントを授業計画に組み込み、実践を進めていきます。

「雪わたり」 **提案②**

② 人間ときつねの関係について考える。

- 1、今までの国語の「きつね」といえば・・・
「きつねのおきゃくさま」「ごんぎつね」イメージを振り返る。
- 2、「雪わたり」でのきつねのイメージを捉える。
※ 教科書では「山場」の観点を活用
- 3、他の絵本でのきつね像に広げていく。
※ いくつか絵本を例に挙げ、児童に選ばせる。
そうすると、個別も協働もできる。
※ 余裕があれば、児童が自分で本を選んでいく方向に持っていった方がいい。

ロイロノートとか使えないかな・・・と思っています。

Ⅲ 次回の小学校読むこと部会の予定

6月30日（木）18：30～ ZOOM 会議

お問い合わせ 西区 児玉小 山田博史